

# 就学前教育・保育通信

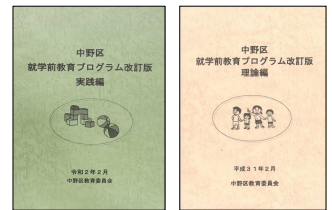
令和3年7月16日  
中野区教育委員会指導室  
就学前教育推進担当  
電話 03(3228)8738

これまで「就学前教育連携通信」を発行し、区内の就学前教育・保育施設の取組と小学校や中学校の連携の取組についてお知らせしておりましたが、この2つの取組のそれぞれを一層深くお伝えするために、新しく「就学前教育・保育通信」を作成することになりました。この通信では、主に区内の就学前教育・保育施設の取組を中心に、中野区運動遊びプログラムや合同研究の内容なども掲載する予定です。第1号は運動遊びについて特集しました。ぜひ、自園の保育に活かしていただきたいと思います。

## <子どもたちが大好きな 運動遊び！～参考にしてほしい資料の紹介～>

### 1. 「中野区就学前教育プログラム改訂版(実践編)」

令和2年2月に作成された「中野区就学前教育プログラム改訂版(実践編)」は、平成30年度に作成された「中野区就学前教育プログラム改訂版(理論編)」を基に、乳幼児期の子どもに生きる力の基礎を培うために、発達や学びの連続性を考慮しながら、0歳児から5歳児の発達に応じて経験させたい内容を明らかにするとともに、具体的な指導方法が写真や図入りで明示されています。



### 2. 「中野区運動遊びプログラム」

ねらい：「活発に体を動かしているいろいろな遊びを楽しみ、身体を動かすことが好きな子どもを育てる」



中野区内の就学前の子どもの身体にかかわる実態について調査研究を行った結果、中野区の子どもは身体を動かす経験のうち「投げる」「腕で身体を支えたり、回転したりする」「楽しみながら様々な身体部位を動かす」という経験が不足していることがわかりました。

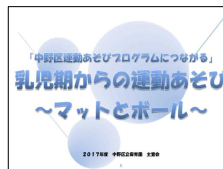
このことから、中野区運動遊びプログラムでは、3つの遊びに絞って取り組むことになりました。

- ☆ 投げる⇒「ボール遊び」
- ☆ 腕で身体を支えたり、回転したりする⇒「マット遊び」
- ☆ 楽しみながら十分に身体を動かす⇒「多様な動きを経験する遊び(鬼遊びなど)」

### 3. 「中野区運動遊びプログラム」につながる 「乳児期からの運動遊び～マットとボール～」

区立保育園では、継続的に日々の保育の中で、中野区運動遊びプログラムに取り組んでいます。

その中で、中野区運動遊びプログラムが4・5歳児向けのプログラムとなっているため、これにつながる乳児期からの取組についての重要性にふれた、「乳児期からの運動遊び～マットとボール～」が作成されました。この資料は、区立保育園のみならず、区内の就学前教育・保育施設での活用や、広く地域の子育て家庭にも配布され、遊びのヒントにつながっています。



### 4. 「鬼遊び資料集」

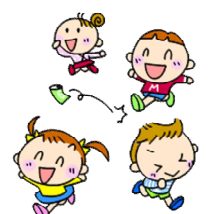
中野区運動遊びプログラムの実践を通して、楽しみながら十分に身体を動かす鬼遊びのおもしろさ大切さに注目し、鬼遊び資料集を作成しました。

今年度の合同研究運動遊びの内容にもつながる、「鬼遊び」は子どもたちが大好きな遊びの一つです。



すべての子どもの心身の健全な成長を促すために、日常生活で身体を動かす経験が少ない子どもにも、幼児期から身体を動かす楽しさを感じる機会を保障することが必要であり、都心に近く子どもが安心して遊べる公園が少ない中野区においては、保育園・幼稚園・こども園等が子どもたちの体作りに重要な役割を担っていると考えられます。

上記資料に関してご希望の園は、就学前教育推進担当にお問い合わせください。



## <子どもたちが大好きな 運動遊び！～保護者に伝える～>

中野区立 弥生保育園「7月の園だより」

◎楽しく身体を動かす経験を大切にしています。もも組(1歳児)のエピソードから..。

6月の園だよりでは、「4,5歳児が身体能力測定をします」とお知らせしました。園目標には「心身ともに丈夫な子ども」という項目があります。身体を動かす事が好きで、友だちと一緒に遊ぶことが大好きな子どもになって欲しい、ということ意識した大きな目標です。

すみれ組とさくら組は雨の日以外は毎朝園庭で体操をしています。ベランダではまねっこしながら見学をするたんぽぽ組の子どもたち。時々ちゅうりっぷ組もそこに参加する様になってきています。



さて、2階のベランダから様子を見ているもも組はというと…。知らない体操でも音楽が少しでも聞こえてくるだけで、ニコニコ身体を揺らし初めます。保育者は一緒に歌ったり、かけ声を掛けたりしながら踊って見せます。初めのうちはみているだけで身体は動かなくても、繰り返し見ているうちに真似して手や足、頭、身体全体を動かして自分で踊ってみようになります。先回りして好きな振りのところだけ参加できるようになる子、片足立ちができないけど片足立ちがしたくて、側にある物にわざわざ掴まりに行つて足を上げる子…。

もも組の小さな子ども達が自分で考え身体を動かそうとする姿は、なんとも可愛くて感心させられます。

どのクラスでも子どもたちの「やってみたい」という意欲や「やったら楽しかった」という達成感、「楽しかったね、またやろうね」という豊かな感性や協同性。様々な育ちが子どもたちが好きな体操からも育まれています。身体を楽しく動かす、動くことが大好きな子どもたちは身体を鍛えるのみならず、心も大きく育っていきます。

## <子どもたちが大好きな 運動遊び！～小・中学校につながる～>

### 「小・中学校の取組 体力向上プログラム」

中野区教育委員会「教育要覧」

#### 1 「体力」の意義とは

体力は全ての活動の源であり、運動や健康のほか気力や知力の充実に大きくかかわる、人の成長・発達を支える重要な要素である。

#### 2 中野区の子どもたちに求められる体力

- ◆「運動するための体力」・・・運動するための基礎となる身体的能力
- ◆「心も体も元気に生活するための体力」・・・健康の維持と気力や知力の源となる体力

#### 3 各学校の体力向上プログラムの基本的な考え方

学校は、全ての子どもに対して、全教育活動を通して体力の意義を理解させ、運動や運動遊びをする意欲を喚起するとともに、睡眠や食生活など適切な生活習慣を身に付けさせていくことによって、子どもたちは家庭においても、また地域の中でも、生涯にわたって「いつでも、どこでも、誰とでも、いつまでも」体力向上に資する生活を送ることができるようになることを考える。そのために各学校は、子どもたちに運動や運動遊びの楽しさを十分に味わわせることができるよう指導を工夫したり、食育や健康教育を各教科、特別活動、休み時間や放課後などの取組の中で展開したりすることが必要になる。その計画が、各学校の体力向上プログラムである。

中野区運動遊びプログラム」のねらい「活発に体を動かしているいろいろな遊びを楽しみ、体を動かすことが好きな子どもを育てる」はこの考え方へとつながっています。



大きなスポーツの大会が次々と開かれるこの時期。様々な話題を見たり聞いたりする機会が多くなり、子どもたちは関心を寄せて、目を輝かせることでしょう。生涯にわたって体力向上に資する生活を送ることができるようになるために、いま保育者ができることは何か？保育者自身が子どもたちと一緒に、体を動かして大いに楽しむことではないでしょうか。

